

20回目の「町会のお宝・自慢」紹介コーナー。次号が最終回となります。今号では、地域コミュニティの復活を目指す大橋町(西部)の「もちつき大会とたこあげ大会」、市内有数の高層建築物である米山町の「米山市営住宅」、佐野家の菩提寺としてお墓を守り続けている原町の「本光寺」、安蘇馬車鉄道の名残を残す富士見町の「安蘇馬車鉄道軌場供養碑」などを紹介します。

佐野地区

佐野地区は佐野市の中央南部に位置し、佐野駅周辺の25町会からなります。

大橋町(市街部) 《旧佐野大橋(猿橋)跡》

所在地：大橋町2207番地付近

現在の大橋(昭和3年に開通した、県道桐生岩舟線に架かる橋)と中橋(大橋の南に架かる橋)の間に、かつては橋がありました。江戸時代から昭和初期まで利用されたこの橋は佐野大橋(猿橋)と呼ばれ、日光例幣使街道も通っていました。かつての橋のためには、この橋の存在を後世に伝えるため、大正11年に建てられた記念碑があります。

この碑を建てるために寄進を募った際には、当時の金額で3円も出した方もおり、なぜか女性の寄進者が多く、碑の裏側には名前も記されています。

大橋町(市街部)ではほかに、食めぐり、須永文庫などを紹介いただきました。



大橋町(西部) 《もちつき大会とたこあげ大会》

所在地：大橋町1676番地

近年薄れている地域コミュニティの絆を取り戻すため、町会が主体となり、始めた取り組みです。

もちつき大会は、もちつきそのものを知らない子もいる現在、子どもたちにその体験をさせたいということで5年前に始められました。たこあげ大会は、世界に一つのオリジナルたこを自分の手で作成し、それをあげる楽しさを子どもたちに伝えたいということで2年前から始められました。少子化が叫ばれる昨今、こうしたふれあいが子どもたちの成長の一助となり、元気に育って欲しいと切に願います。

大橋町(西部)ではほかに、八坂神社祭り、梵天祭などを紹介いただきました。



犬伏地区

犬伏地区は佐野市の南東部に位置し、栃木市、岩舟町と境を接する20町会からなります。

米山町 《米山市営住宅》

所在地：関川町840番地

平成3年度から平成13年度にかけて建設された、県内でも珍しい高層市営住宅です。総戸数は320戸にもなり、主にその住人で構成されているのが米山町です。最も高い建物は10階建てで、すぐ近くを東北自動車道も通っているため、高速道路を通行中も容易に確認することができます。佐野市が関東平野の北端に位置していることもあり、「東北自動車道を北上して山が見えたら佐野市」ともいいますが、「米山市営住宅が見えたら佐野市」という人もおり、佐野市のランドマークともいえる建物です。

米山町ではほかに、歌の得意な元民生委員協力員、スペイン語ができる元看護師などを紹介いただきました。



富岡町(東部) 《油絵画家》

所在地：富岡町1658番地

長らく板金工場を営んでいる野尻一雄さんですが、60歳になるころから本格的に取り組んでいる油絵(静物、風景画)で高い評価を受けています。平成7年に長い歴史を誇る美術公募団体白日会展で初入選、その後、平成10年まで4年連続で入選しました。平成14年には、日本を代表する美術展覧会の1つである日展(日本美術展覧会)で初出品初入選を飾り、その後も幾度となく入選の栄誉に輝いています。作品は佐野厚生総合病院などに展示されているほか、昨年7月に実施された、まちなか・まちかどギャラリー「いっ展べえ」の際にも作品を提供していただきました。右の写真は平成22年の作品で「秋の気配」です。



お知らせ

文化財防火演習について 法隆寺金堂壁画が焼失した日を「文化財防火デー」と定め、毎年この日を中心に全国各地で文化財防火演習が行われます。佐野市でも1月24日(火)に一瓶塚稲荷神社(田沼町)で行います。当日は、消防車がサイレンを鳴らしながら出動します。■問合せ 生涯学習課文化財保護係 ☎(86)3495

田沼地区

田沼地区は佐野市の中央南部に位置し、田沼駅周辺の9町会からなります。

下田沼 《石幢(せきどう)》

所在地：栃本町2348番地

石幢は鎌倉時代に中国からもたらされ、室町時代に念仏供養の地藏信仰と結びついて広まったといわれています。六角のものと八角のものがありますが、こちらの石幢は六角で、上から宝珠、笠、龕部(がんぶ)、中台(ちゅうだい)、竿・幢身(とうしん)、基礎で成り立っています。六角の各面にはそれぞれお地藏様が彫られており、江戸時代中期に造られたとされています。石幢は全国的にも極めて数が少ないものであり、平成7年に田沼町(当時)の有形文化財(考古資料)に指定されました。

下田沼ではほかに、下田沼納涼祭、将軍地藏菩薩と摩多利尊神社などを紹介いただきました。



原町 《本光寺》

所在地：栃本町1470番地

文亀2年(1502)、佐野家の菩提寺として創建され、大永2年(1522)には後柏原天皇より勅願寺の詔(みことのり)を賜りました。その後、佐野家の改易と共に寺領を没収されましたが、徳川3代将軍家光公から御朱印地を拝領するなどし、明治維新を経て現在に至ります。

佐野家の菩提寺であったため、佐野家の墓があるのみならず、創建後500年という歴史の証明ともいうべき「後柏原天皇御綸旨(りんじ)」「佐野氏忠の判物(はんもつ)」など、数々の佐野市指定有形文化財を所有しています。

原町ではほかに、大豆工房と製麦所、眞齋塾(寺子屋跡)などを紹介いただきました。



葛生地区

葛生地区は佐野市の北東部に位置し、栃木市、岩舟町と境を接する15町会からなります。

宮本町 《南光寺の大白椿と孝子節婦

(こうしせつぷ)の墓》 所在地:宮下町12番1号

南光寺にある大白椿は、秋山町にある出原(いずはら)の大椿に匹敵する大きさを持ち、旧葛生町を代表する椿の巨木です。その推定樹齢は約350年、高さと枝張りはともに8m程、幹廻りは1.3m程にもなり、春には白花をつけます。昭和53年に葛生町(当時)の有形文化財(天然記念物)に指定されました。

孝子節婦の墓は、宮本町に住む百姓一家が睦まじく協力して両親に孝養を尽くしたため、寛延2年(1749)4月に領主松平武元公より表彰されたことを記念して建てられたとされています。佐野市有形文化財(典籍)に指定されている、江戸幕府編纂の善行集「官刻孝義録」にも記載されています。



富士見町 《安蘇馬車鉄道軌場(ばんば)

顕彰供養碑》 所在地：富士見町223番地先

明治21年に設立された安蘇馬車鉄道(葛生から越名河岸まで、主に石灰を運んだ。明治27年に佐野鉄道へ継承しSLに転換)の鉄道馬車を引く馬の功績を尊び、病気に倒れた馬を供養している記念碑です。当時の人々が、馬という動物を今日とは比べものにならないほど敬愛し、その死後も感謝の念を持って接していたかが容易に想像できます。人と馬とが生活を共にしていた時代をご存じの方にとっては懐かしさを感じる、安蘇馬車鉄道の名残をとどめる貴重な歴史的遺産であり、当時の人々の思いを感じることができる心温まるお宝です。

富士見町ではほかに、白山神社を紹介いただきました。



～名刺サイズ、二つ折り観光パンフレット(冬)を配布しています。ご希望の方は観光立市推進室までご連絡ください～

▶お問い合わせは、観光立市推進室 ☎(27)3012